

..... 編集後記

◆ 新年おめでとうございます。小玉所長の巻頭エッセイにもありますように、21世紀の第1歩を踏み出し、地質調査所は独立行政法人化の年を迎えました。まず、1月6日に、通商産業省 工業技術院 地質調査所から経済産業省 産業技術総合研究所 地質調査所に変わります。4月1日には独立行政法人としての産業技術総合研究所の一部となり、地質調査所の名前は無くなります。どのような研究所に変わって行くか、3月号に特集記事を掲載する予定です。

◆ 昨年3月末の有珠火山の噴火に続き、8月には三宅島が火山活動を開始しました。そのほか、2000年は国内外での地震活動も活発な年でした。三宅島の火山活動にマグマが直接関与しているか否か。結論を追う地質調査所火山研究チームの活動を、具体的な記述で分かりやすく解説していただきました。所内のメーリングリストには毎日何本ものメールが行き交い、ホームページ上にもヘリコプターからの観察結果が日々紹介されていきます。ホームページへのアクセスが可能な方は本文中にアドレスが紹介されておりますので、是非ご覧ください。

◆ 海洋地質部の池原さんが、ご自身の体験に基づく堆積物の記載方法を詳細にまとめて下さいました。大変具体的な内容ですので、現場でコアの記載をしようとされる方のお役にたつことと思います。私自身、現在の部署に異動する前は海洋地質部におり、その昔は、船上で堆積物コアの記載をしたこともありました。教科書通りの形態をしたようなコアがとれることはまずなくて、トップが流失していたり、途中が途切れてい

たり、インナーチューブを切ったら中のコアがはみだしたり、こんな時どのようにしたら良いだろうかと、しばしば悩みました。池原さんは、現場で出会う、教科書には載ってない部分をていねいに書き込んで下さっています。

◆ 筑波移転の翌年、1980年8月に地質標本館が開館しました。それから20年。昨年8月に20周年を迎えた地質標本館の活動の歩みを振り返って、特別展示や体験型イベント等の活動内容に関する記事を書いていただきました。1990年の開館10周年にあたる年から始まった企画展示は、その後の地質調査所における研究成果の広報・普及という意識を高めさせる萌芽となり、お手本となったように思います。4月からの独立行政法人化後は、地質標本館は活動範囲を広げ、多様な活動を進めて行く予定です。

◆ 昨年5月から6月にかけて別府市及び盛岡市を会場に世界地熱会議が開催されました。地殻熱部の安川さんが、会議全般の様子、共通セッションの個々の講演の紹介、国際地熱協会のP. M. Wright会長による特別講演について紹介して下さいました。環境問題に真剣に取り組んで、廃棄物の減量にできる限り取り組んでいる国と、自国内で生産するより輸入したほうが効率的だと言って食糧の多くを輸入している国との違いは、当然エネルギー問題に対する対応の仕方に現れて来ます。言葉だけでなく、本当に言葉だけでなく、21世紀が人類にとって健康で文化的な、輝かしい時代になるように願っています。

(湯浅真人)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人

副委員長：石井武政

委員：星住英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建
佐藤興平・大熊茂雄・前川竜男・木下泰正・
中野 司・遠藤祐二

事務局：総務部業務課広報係（渡辺光次・河村幸男）

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-61-3520

Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第557号	2001年	1月号
	定価¥785 (本体価格¥748)	〒実費	
2001年1月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8	〒102-0073	
	Tel. (03)3265-0951 (代表)		
	Fax. (03)3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

©2001 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ